

滋賀県立守山養護学校

教育後援会だより

子どもたち そして
保護者の方々の支えの場として



教育後援会会長
武藤 敬助

後援会の皆様には日頃よりご理解・ご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、守山養護学校のある「滋賀県立小児保健医療センター」が、本年1月より病院組織改編のため名称が「滋賀県立総合病院こども棟」に変わりました。病院経営や時代の変化の中で名称が変更されるのは、正直寂しい気持ちもありますが、仕方がないのかもしれません。

しかし、滋賀県立守山養護学校は、これまで通り病弱特別支援学校として総合病院こども棟に入院される子どもたちの学校として変わらず取り組んでいくことになります。

本年4月末に久しぶりに対面での教育後援会総会が開催されました。保護者の方々をはじめ教職員の方々も出席くださり、和やかな内に総会を進めることができました。本当に感謝です。総会の中で出席者全員が自己紹介をし、少しの時間でしたが交流の場を持つことができました。

その中で、遠く県外から入院されている子どもさんのお母様からとても嬉しいお気持ちを聞かせていただくことができました。入院先を探していて滋賀に病院があると知り、同時に学校もあることで

入院をされたとのことでした。子どもさんも喜んで学校に来てくださり、お母様も安心して入院できることを喜んでいてお話をしてくださいました。治療と共に勉強できる場があることは、ご本人はもちろんのこと、ご家族にとっても支えになることと思います。

これからも守山養護学校は入院される子どもさん方を学校・先生方総出で支えてくださることでしょう。ご本人はもちろんご家族の皆様も入院生活で大変だと思いますが、ご家庭・病院・学校が共に力を合わせ子どもさんを支えていきましょう。

教育後援会としましても、微力ながら今後も支えていきたいと思っています。

会員の皆様には、これからも格別のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

第 54号 <令和 7 年7月1日発行>

滋賀県守山市守山五丁目6番20号

守山養護学校教育後援会

TEL: (077) 583-5857

FAX: (077) 583-7543

H P: <http://www.moriyama-sh.shiga-ec.ed.jp/>

MAIL: moriyama-sh@pref-shiga.ed.jp



「病気とつきあいながら学ぶこどもの支援センター」
としての活動を開始しました。(2024年4月から)

相談専用電話 TEL: (077) 582-9154

学校生活の様子

びわこタイム <5月8日(木)>

昨年度に引き続き、今年度も遠足の代替行事『びわこタイム』に取り組みました。今年も琵琶湖博物館から鳥のカービング(カイツブリ、マガモ、キンクロハジロ、カワウ、オシドリ、オオバンなど)、魚の模型(コイ、ワカサギ、ドジョウ、ホンモロコ、フナ、マス、おまけで鮒ずしなど)をお借りし、学校のプレイルームや廊下に展示しました。校舎内では、公式 YouTube から、琵琶湖博物館の水のトンネルや水槽の映像が廊下やホワイトボードに映し出され、学校はまさに琵琶湖博物館。さまざまな鳥の鳴き声や水の流れる音が聞こえる、日常とは異なる特別な雰囲気の中で、子どもたちは“びわこ”や“環境”について学ぶことができました。



<展示の様子>



<トンネル水槽の映像>

午前中は、滋賀県地球温暖化防止活動推進センターの先生方に来校していただき、『ミッション!びわ湖の魚をすくえ!』『買い物ゲーム』の2つのグループに分かれて活動しました。

『ミッション!びわ湖の魚をすくえ!』では、魚釣り

ゲームを通して、固有種や外来種など、琵琶湖に生息する魚のことや温暖化について学習しました。『買い物ゲーム』では、さまざまな商品の中から、どれを選ぶことが、エコにどのようなつながるのかを学習しました。生活の中で使用する様々な商品を実際に手に取って商品に示されている情報を読み取り、一人ひとりが“エコ”を意識しながら買い物に取り組むことができました。子どもたちそれぞれに新たな発見があり、環境にやさしい行動をしようという意識を高めることができました。



<ミッション!びわ湖の魚をすくえ!>

午後からは琵琶湖博物館の『むかしのくらし』展示にちなんで、1日限定の駄菓子屋さんで買い物をしました。小学生は朝から駄菓子を心待ちにしていた、開店と同時に小遣い(模擬貨幣)を持って駄菓子屋さんへ!中学生は店員役を担い、レジを担当しました。駄菓子の購入費用については、本校教育後援会から活動補助費として援助をいただきました。たくさんの種類の中からじっくり吟味して選んだ駄菓子を、子どもたちは嬉しそうに食べていました。ありがとうございました。



<駄菓子屋さんの様子>

運動会 <5月30日(金)>

5月30日金曜日の2～4校時に、プレイルームで運動会を行いました。昨年に引き続き、感染症対策を徹底して、保護者の方にも参観していただけるようにしました。また、病院関係者の皆様にも参観いただくことができ、温かい声援の中、子どもたちは、楽しく、賑やかに活動することができました。

今年も、5年生以上の児童生徒で構成する子ども実行委員会が、企画運営を担当しました。運動会当日までの約1か月の準備期間の間、スローガンやテーマソングを考えたり、当日の司会進行やプログラムの挿絵を描いたり、運動会を盛り上げるために取り組みました。

パワータイム種目は、『赤白対抗つなひき大会』でした。運動会までに、登校している児童生徒、病院内で学習している児童生徒一人ひとりが、図工や美術

で布を染め、その布を編んで自分だけの色鮮やかな綱を作りました。運動会当日は、赤組と白組に分かれ、自分の綱と相手の綱をつなぎ合わせて引き合いました。いつもと全く違う雰囲気の中での取組でしたが、友だちや観ているみなさんからの「オーエス!オーエス!」というかけ声や、「がんばれー!」「引っ張れー!」という声援を受けて、練習の時以上に力強く綱を引き合う児童生徒の姿が見られました。種目の最後には、全員の綱をステージ中央に設置した紅白の幕につなぎ、力を合わせて幕を開けまし



<運動会スローガン>



<パワータイム種目>

た。幕の後ろから「もりやん」が登場すると、プレイルームが温かな拍手で包まれました。

スマイル種目は、『MORIYOU FLOOR CURLING』でした。

フロアカーリングは、キャスター付きの木製のフロッカーを滑らせてターゲットを狙う、氷上カーリングの室内版です。

単純にターゲットを狙うのか、先を読んで相手を翻弄する位置を

狙うのか、互いに戦略を練って、送球します。張り詰めた緊張感の中、送球する向きや力をイメージ通りにフロッカーに伝えることは至難の業です。豪快なストレートショットに、戦略的なカーブなど、多彩なフロッカーの行方に、会場のみんながハラハラドキドキ。最後まで集中力を保って戦い抜いた生徒たちに、惜しめない拍手が送られました。

チャレンジ種目『ボールでつなぐ心の輪』では、お玉転がし、つなぎ、玉入れの3つの競技をリレーのようにつなぎ、ボールをたくさん集めていくことに挑戦しました。つなぎでは、順番にひもを引っ張り合い、真ん中に付いているかごが自分の近くに来た時にボールを1つずつ入れることで、協力してボールを集めました。真ん中のかごが倒れないようにバランスを取りながら、集中

して取り組む子どもたちの姿がとても印象的でした。練習の初めは、ひもの引っ張り方やボールの投げ方に苦戦していた子どもたちでしたが、友だちと声をかけ合ってタイミングを合わせたり、投げる向きを考えたりするなどの工夫をしながら練習した成果もあり、最後にはたくさんのボールを集めることができました。

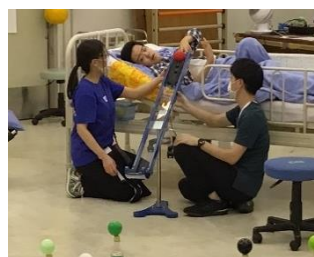


<スマイル種目>



<チャレンジ種目>

全員種目は、『ボッチャですごく! ~めざせ!びわこ1周!~』でした。手首を上手く使ってターゲットマットにボールをピタッと止めたり、ランプを使って勢いよく転がしてペットボトルのピンを倒したりと、思い思いに送球し、得点に応じて「びわ湖すごく」のコマを進めていき



<全員種目>



<めざせ!びわこ1周!>

ました。途中の『?マーク』を通過すると、滋賀県の観光地や名所の写真や説明があり、滋賀県の文化や歴史に触れながら、みんなで協力して、びわ湖を1周することができました。

閉会式では、子ども実行委員が「スローガンのとおり、皆の元気な姿をたくさん見ることができたと思います。この運動会を通して頑張れたことや、やり切ったことをしっかりと振り返り、また次の目標に向かって頑張りましょう。」とまとめました。



<子ども実行委員>

また、閉会式では、教育後援会会員の皆様のご理解ご協力のもと、今年もグループごとに参加賞をいただきました。

パワータイムグループは、見た目もかわいい電子楽器『オタマトーン』をいただきました。パワータイムグループの



<参加賞>

教員が演奏したり、児童生徒が自分で触って音を出したりと、休み時間だけでなく、授業でも活用させていただいています。また、スマイルグループは、言葉をそろえて遊ぶ『ひらがじゃん』や通常のUNOに

ルールやカードが追加された『UNO ハンパねえ』等のカードゲーム、チャレンジグループは、手元にある9枚のタイルをお題どおりに並べる『ナインタイル』と『どうぶつしょうぎ』をいただきました。ルール通りに遊ぶだけでなく、友だちと相談してルールを工夫しながら遊んだり、初めて遊ぶ友だちや教員にルールを教えたりと、皆で楽しく遊ぶ子どもの姿が見られています。

～総会事務局より～

会員の皆様からたくさんのご理解とご協力をいただき、去る4月25日(金)に、令和7年度教育後援会総会を、実に6年振りに開催させていただくことができました。ありがとうございました。

当日の様子は、本誌巻頭の武藤会長ご挨拶に書いていただいているとおりです。

総会当日、お忙しい中ご参加いただきました、保護者会員の皆様ありがとうございました。また、出欠票に返信をしていただきました賛助会員の皆様ありがとうございました。賛助会員の皆様からの出欠票には、本校への応援や励ましの言葉やイラストを添えてくださったハガキもあり、会員の皆様のご厚意に、職員一同感謝しております。

～編集後記～

会員の皆様のご支援、ご協力のおかげで第54号を発行することができましたこと、厚くお礼申し上げます。これからも入院中の子どもたち一人ひとりの学校生活の充実のため、本会の活動を更に進めたいと考えておりますので、会員の皆様には、今後も引き続き、ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

学校は間もなく1学期末を迎えます。2学期以降も、文化祭、親子教室、先輩の話を聞く会、そして学習交流会など、たくさんの活動や行事を計画しています。本誌次号(55号)でも、本校の子どもたちの様子を皆様にお伝えできること、今から楽しみにしております。